

2011 年レースレポート

Bike & Sports ENERGY パートナーアスリート

岩渕 努

4月24日	全日本トライアスロン宮古島大会	総合55位 (バイクパート46位)
6月19日	みなと酒田トライアスロンおしんレース	総合5位 (バイクパート4位) 東北選手権3位
7月10日	長井トライアスロン大会	総合2位 (バイクパート3位)
7月31日	千貫石デュアスロン大会	総合優勝 (バイク・ラン1位)

使用機材

HOLMENKOL: メンテナンスケミカル

2011 年は東日本大震災の影響により東北地方の太平洋側の大会が相次いで中止となった。私のホームゲームである『釜石はまゆりトライアスロン国際大会』もその影響を受け、中止を余儀なくされた。

そんな中、2011 シーズンは復興の意味も込められた日本海側を中心に出場した。

日本選手権の東北予選でもある6月の酒田大会。今回で5回目の出場とあって、コースはしっかりと頭に入っていた。

大会前日、『ルーベエクストリーム』をチェーン一つ一つに垂らしながらメンテナンス。ルーベエクストリームの効果は4月の宮古島大会で実感していたが、やはりメンテナンス中にも金属音の違いが表れた。以前使用していた他社オイルとの違いは、やはりナノレベルでのコーティングであると感じている。ペダルを回した際に発生するギア周りの金属音の違いは歴然である。さらに、メンテナンス時よりも効果が感じ取れるのは乗った感覚である。メンテナンス前と後ではギア1枚軽く感じると言っても過言ではない。

さらに今シーズン試みたものが、ウエットスーツ・ランシューズへの『ハイテクプルーフ』の塗布である。ハイテクプルーフは塗布された物が撥水効果を長時間維持させてくれる。私のウエットスーツは今年で3シーズン目ということで、肩周り等擦れやすい個所の撥水性が劣ってきていたため、塗布を試みた。ハイテクプルーフを塗布した後、水をかけてみると水は大きな玉のまま流れていった。また、ランシューズは水を体にかけることでいつも靴の中まで濡れてしまい、靴ずれをおこしたりしていたため、ハイテクプルーフでもって解決を試みた。

迎えたレース、スイムは水温が低いこともあったため心拍数をいきなり上げすぎないように気持ちを落ち着かせていった。ハイテクプルーフの効果もあってか、僅かではあるが浮力として感じ取れたように思える。何より、前日に撥水性を確認していたため、モチベーションが上がった。スイムは14位で終えた。

バイクは13.3kmを3周回するコース。追い風、向かい風がはっきりとしておりペース配分には困らなかった。前日のメンテナンスの効果もあり、バイクにまたがり一回転目のペダリング時にそのスムーズさは一番感じ取れた。それほど落ち着いていたこともあり、バイクではラップ4位と好位置につけた。

最後の種目、ラン競技時にはだいぶ気温も上がってきていたことから水をかけながら走った。結果、東北選手権3位入賞ではあったが、日本選手権の出場権は2枠であり、獲得できず悔しい思いをした。しかし、その中でもホルメンコールメンテナンスの効果が大変感じ取ることができた。

レース後ランシューズを確認してみると、いつもであれば靴を脱ぐと足が白くなるほど蒸しあがっていたが、今回はそのようなことはなく、いつもより濡れが軽減されていた。また、ウェットスーツについてもレース後の洗浄時に撥水効果が保たれており改めて持続性に感心させられた。

7月31日の第一回千貫石（せんがいし）デュアスロン大会（岩手県金ヶ崎町）、路面はウエット、若干の小雨ということでレース直前に『ダートプロテクター』をフレームに塗布した。レースはバイク12km、ラン6km。スタートから飛び出しバイク終了時には後続に3分程差をつけ、そのまま独走状態で優勝を飾ることができた。レース終了後のメンテナンスで驚かされたのが、フレームの汚れ取りであった。軽く水をかけるだけ、若しくはさっと触れるだけで汚れが落ちていったのである。いつも雨レースの後苦労していたメンテナンスがまた一つ楽しく・楽になったように思える。

今シーズンは冒頭で申し上げた通り、釜石大会を始め太平洋側の大会が中止となったこともあり、今シーズンは出場回数が少なくなりましたが、出場した大会すべてにおいてホルメンケミカルの恩恵により充実したレースを展開することができました。来シーズンはさらなるレベルアップができるよう、ホルメンケミカルの特性の理解を深め、レースコンディションにあったメンテナンスを施し、すべての大会で表彰台を狙いたいと思います。

岩渕努公式ブログ

[トライアスリート・ハイ!!](#)



みなと酒田トライアスロンおしんレース



東北選手権3位 表彰（右）



長井トライアスロン大会